



今週のプログラム

- 第2701回 (10/7)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*三祝

- *イニシエーションスピーチ
北澤誠一 会員

次回のプログラム

- 第2702回 (10/14)
- 会場 京王プラザホテル八王子

- *卓話: 岩谷産業株式会社
執行役員 首都圏支社 支社長
横谷和貴様

テーマ: 「地域環境と水素エネルギーについて」

卓話 「報道から読み取る台湾の今、そしてこれから」

2022年9月6日 (金)



黒須隆一名誉会員

台湾政府の発信 日米欧の動き

昨年の10月8日に台湾の国会で、国防大臣が「中国は2025年にも台湾への侵攻が可能になる」と答弁をしております。ちょうど同じ時期に、日本でも森本元防衛大臣が「台湾有事は2024年から25年が山場になるだろう」という発言をしています。10月10日というのは、中華民国建国記念日にあたるわけです。双十節、あるいは國慶節と言われ、毎年大きな催しがございます。東京でも行っておりますが、昨年の10月10日の双十節で、蔡英文総統は「圧力に屈することは絶対にならない」として「現状維持を」という発言をしています。現状維持、っていうのは、台湾にとってすごく大事なことなん

ですね。独立をっていうのは簡単ですが、これは容易なことじゃありません。現状維持を、っていうのは望んでることだろうと思います。昨年の10月23日バイデン大統領が「台湾を守る責任がある」と発言をしております。その後、今年の5月24日、岸田首相との会談時にも「台湾防衛に米国は積極的に関与する」と、発言をしております。また、4月16日にはサリバン大統領補佐官が、「中国の侵攻は起こさせない。台湾はウクライナと違う。なぜならば、台湾関係法があるから」という発言もしております。日本はどうか。安倍元総理が昨年の12月2日リモートで講演をされ、「台湾有事は日米同盟の有事」と発言をされております。そして、今年の4月20日には、安倍元総理はフランスのル・モンド紙に対して「米国は台湾防衛意思を明確にすべきだ」という内容の寄稿を行っております。また、欧米の民主主義国家の世論調査においても「台湾支持」が圧倒的です。

今年の4月22日に台湾の高官が「現在ミサイル「雄風」(射程600キロ)を配備済みであるが、射程1200キロのミサイル「雄昇」の量産を開始した」と、これを「100発以上作ると発言をしました。上海迄約1000キロですから、上海も射程距離に入ります。その約2ヵ月後の6月12日には台湾の国会議長が発言をし、「実は「靈峰」という射程2000キロ以上のミサイルが台湾にあり、今それも製造している」と。これは北京との距離が1800キロですから、北京を射程距離に含むということですね。また、台湾民進党の議員団が先月日本を訪問して、「台湾旅行法」っていうのをぜひ、アメリカと同じように作ってほしい。と要請をしております。もう一つ、「安倍晋三の会」が設立準備中という報道が5月にありました。安倍さんのファンというのは、台湾にはすごく多いんですね。これは民間の交流団体ですが、日本に「日本李登輝友の会」というのがございます。それと同じような団体で、発起人としては、学者や医師、経営者など50人超、著名な人たちです。会長には官房長官、外務大臣を経験された方がなられて、既に設立をされました。6月6日に安倍元総理は、「台湾有事は日本有事」ということ

を明確に講演で述べたわけがございます。また合わせて、「防衛費はGDP比2%超を確保すべきだ」というような発言もしております。残念ながら安倍元総理は7月8日に逝去されましたが、台湾では直ちに台北市で追悼のコンサートが行われました。同時に多額のお金が集まりました。そのおかげから、それを奨学金に使うというところで、日本の学生が台湾に留学する時に最高一人100万円まで支援しようということが決まりました。また等身大の安倍さんの像を作ろう、ということまで決まったようでございます。そしてまた、台湾に現役防衛省職員が常駐することが決まり、8月に派遣されたようです。

中台軍事力の比較

軍事力の比較をしてみたいと思います。防衛省が発行しています防衛白書によると、陸上・海上の戦力は圧倒的に中国が多く、約10倍です。数の上で10倍ですけれども、性能装備とかを見ると20倍、30倍になるのでは、そんな感じがいたします。総兵力は中国は204万人、台湾は16万人というところであります。また、現

中台軍事力の比較

(出典先：2021 防衛白書)

		中国	台湾
総兵力		約204万人	約16万人
陸上戦力	陸上兵力	約97万人	約9万人
	戦車等	99/A型、96/A型、88A/B型など 約6,000両	M-60A、M-48A/Hなど 約700両
海上戦力	軍艦	約730隻 約212万トン	約250隻 約20.5万トン
	空母・駆逐艦・フリゲート	約90隻	約30隻
	潜水艦	約70隻	4隻
航空戦力	作戦機	約2,900機	約520機
	近代的戦闘機	J-10X488機 Su-27/J-11X329機 Su-30X97機 Su-35X24機 J-15X34機 J-16X34機 J-16X150機 J-20X24機 第4・5世代戦闘機 合計1,146機	ミラージュ2000X55機 F-16X143機 経国X127機 第4世代戦闘機 合計325機
参考	人口	約14億200万人	約2,300万人
	兵役	2年	徴兵による入隊は2018年末までに終了(ただし、1994年以降に生まれた人は4か月の軍事訓練を受ける義務)

在の中国の年間軍事予算は、25兆円です。台湾の国防費は、8月26日に新聞報道がございましたが、来年GDP比2.4%まであげようということですが、それでも2兆6500億円というわけで、現状は中国の軍事費の10分の1にも満たない。こういうことでございます。

ロシアのウクライナ侵攻

ロシアのウクライナの侵攻がありました。当然のことながら日本、アメリカ、中国、台湾が特に注視をしています。ロシアはウクライナと陸続きで

すから、15万人の将兵が一気に流れ込みました。ロシアは一週間でこの戦争を終わらせるとのことですが、既に半年を経過しましたが、これが既に半年を経過しました。ですからロシアは、緒戦で失敗をした、圧倒的な第一撃の重要性をそれぞれが認識したようでありませう。そしてアメリカの専門家は、台湾への進行ハードルは極めて上がったというような発言をしております。海上輸送力に中国は現状では限界があるから、補給に苦むだろう。侵攻のハードルはウクライナよりも上がったんじゃないか。しか

し、これは同時に台湾側から言えば、海に囲まれているわけですから、各国が武器の供与に協力しても、これが難しい。事前に集積が必要だということですね。そして、台湾の人たちはこのロシアのウクライナへの侵攻で、共通の認識を持ったことがあります。自国を守る意思がないと国際社会は助けてくれないということですね。これは日本の場合でも言えると思います。それから、侵略者と勇敢に戦うウクライナ人を見習いたい。この2つの認識を持ったようですね。台湾人は、「侵略に、武器を持って戦うか」という問いかけに対して、78.5%、約8割の人たちが武器を持って戦う、こういう答えをしておりませう。ちなみに、日本は何%ぐらいか？先日調査の結果が出ました。13.2%だそうです。これは、OECD加盟国の中でも最低ですね。大体、60%から70%。これはどこの国でも通常であつて、低いところでも50%、日本の13.2%って、こののは、だんとつに低いので、それから、他の人たちは、日本がもし侵略された時、どうしようかっていうんでしょうか。疑問に感じます。台湾の人たちは自分たちは台湾人だと思ってる人が70%を超えています。特に、20代、30代の人たちはほぼ100%「我々は中国人ではない台湾人だ」とい

う意識を持っています。「中国人でもあり、台湾人でもある」という人たちが28%。「私は中国人だ」という人たちはわずかに2%しかいないですから、台湾の人と中国の人たちの、考え方っていうか、思いが大きく違う。これにも原因があるんじゃないかと思えます。

ペロシ米議長の訪台

8月2日にペロシ議長が台湾を訪問しました。蔡総統と会談をし、その後、国会訪問もしましたが、台湾を支持することを強調しておりました。中国がそれに対して当然のことながら、「これは主権侵犯だ。対抗処置を講じる」と怒り、「習近平はメンツを潰された」というような報道もありました。一方台湾は「力強い援軍を得た」と言っておりませう。ペロシ議長は会談が終わってすぐ韓国へ向かったわけですが、次の日に中国は複数のミサイルを発射しております。台湾封鎖を前提にした軍事演習が始まりました。5発が日本のEEZに打ち込ま

れました。このことから「台湾有事は日本有事」が現実化したと言えらると思えます。それからワシントン発ですが、ペロシ氏の訪台は大きな意味があった。「絶対に台湾の孤立は許さない」とペロシ氏自身も発言をしてるわけで、こういうのを見ると蔡英文総統もそうですが、女性指導者は強いつて改めて感じます。

TSMCについて

最近、半導体の問題がよく出ます。実はTSMC(台湾セミコンダクターマニユファクチャリーングカンパニー)が熊本にソニーと合弁で、大きな工場を作ります。これは新聞報道されていますが、投資額は約8000億円、萩生田経産大臣の時に4760億円、日本政府が補助金を出すことが決まりました。2024年の12月から出荷が開始されるということですね。従業員は17000名、台湾からは3000名が来ます。あとはソニーや新規採用ということですね。今年の6月に筑波市に研究開発施設が完成し、また、横浜と大阪に拠点を作るということですね。このTSMCについてお話をしたいと思います。このTSMCは、世界の半導体生産の55%以上を占めています。また、世界の半導体は、70%を台湾が作っているそうです。このTSMCの

企業規模ですが、企業の時価総額で言いますと昨年の数字ですが、世界で10位、トヨタの実に3倍です。昔はNEC、日立、東芝、富士通、三菱電機、これらがジャパンアズナンバーワンと言われた時代があり、日本は半導体のリーダーだったわけですが、半導体の将来性を日本は見誤った。安い外国産に頼ればいいやと、一部の部品について考え方を持ったと言われています。今、「経済安全保障」と言われますが、やはり、経済力というのは国力です。それがすなわち、国防力にもなるわけです。そういう点では、やはり日本の経済界は目先の利益だけじゃなく、技術革新、あるいは設備投資、こういったものに官民あげて取り組まなければいけないんじゃないか。こんなことを感じました。

コロナ禍の2020年、世界の経済成長率はマイナス3.5%でした。日本はマイナス4.8%、一方台湾はプラス2.98%でしたから、台湾の経済力っていうのはやっぱりすごいと思います。このTSMCは、政府が48.3%出資をしている、いわゆる国が創った国策企業です。ですから、国家が産業を創り出し、そして育てる。このことが経済安全保障につながっていくんじゃないかと思います。

例会報告

第2698回・2022.9.9(金)

◇司会 三村裕介会場監督補佐

◇開会点鐘 関 和之会長

◇Rソング 我らの生業

◇食事と交歓 百万ドルの食事

◇出席報告 鈴木重春出席副委員長



出席報告／鈴木重春
出席副委員長

会員101名中64名出席。

出席率68.09%。前回8月26日の出席率61.29%を

76.34%に修正します。

◇ニコニコ発表 松島勝財務委員長



ニコニコ発表／松島勝財務委員長

◇会長挨拶 関和之会長



会長挨拶／関和之会長

*昨日八王子5クラブ会長・幹事・副幹事会が開催され、各クラブの近況報告がありました。当クラブを除いた4クラブの会員増強は多いところで2名でした。我が八王子西ロータリークラブは既に3名の入会式を終え、続いて2名の入会を控え、更に2名の入会申

し込みがあるので合計7名の増強です。おかげさまで良いスタートが切れております。

*会員増強委員長に「二桁を目標そう」という話をしたところ、「何かご馳走してください」ということなので、来週焼肉に行くことになりました。

*先週の理事会で釣り同好会の設立が承認され、細かい規約などはこれからになります。が、今夜釣り同好会が発足します。何か問題点がありましたら改善していきます。

*今回の例会が第2698回、あと2回で2700回になります。亡くなられた黒須パスト会長が首頭を取られたクラブ創立五十五周年の式典の講師を今回呼び出すことになっております。9/30の第2700回記念夜間例会ではJAXAの中澤さんに「はやぶさ2」のことを話したいだけけるそうで、素人の方々が聞いてもわかりやすい内容とのことです。18時開会ですので、是非奮ってご参加のほどよろしくお願いたします。

*9/30(金)18時より第2700回記念夜間例会を開催いたします。遅くなりましたが本日も案内をお送りいたし

ますので、是非ご家族の皆様もお誘いいただきご参加のほどよろしくお願いたします。

*地区より青森県大雨災害支援金について要請があり、予納金より一人当たり500円を支出することが持ち回り理事会で決まりましたのでご報告いたします。

*地区より11/5(土)開催の「第20回記念ロータリー全国囲碁大会」のご案内が届きました。

*東京あげぼのロータリークラブより10/30(日)開催の「子どもと子どもの絵画展」について案内をいただきました。*ガバナー事務所より、10/24(月)に世界ポリオデー2022として銀座で上映される「ブレス〜しあわせの呼吸」のご案内が届きました。以上3件について資料を各テーブルに配布いたしました。ご興味のある方は事務局までお問い合わせください。

*本日メールボックスには、ウィークリー第4号と、八王子市社会福祉協議会からの「歳末たすけあいバザー開催中止のお知らせ」を配付いたしましたのでご確認のほどよろしくお願いたします。

今、そしてこれから

◇閉会点鐘 関和之会長

◇ニコニコボックス

●2022.9.9(金)

◇関会長・黒須名誉会員の卓話、楽しみにしております。

◇三浦・黒須隆一名誉会員の卓話楽しみです。

◇村内・黒須さんの卓話、楽しみにしております。

◇田辺・黒須名誉会員の卓話、拝聴いたします。

◇樫崎・黒須名誉会員の卓話を楽しみにしております。

◇大石和春・黒須名誉会員の卓話楽しみます。

◇金子・黒須会員の卓話楽しみにしております。

◇黒須・台湾に関する卓話の機会を頂きましたので。

◇塚本・黒須名誉会員の卓話楽しみにしております。

◇石森・黒須名誉会員の卓話楽しみにしております。

◇橋本・黒須名誉会員の卓話楽しみます。

◇福田・黒須隆一名誉会員の卓話楽しみにしております。

◇福山・台湾の話、よろしくお願いたします。

◇大田・黒須名誉会員の台湾に関する卓話楽しみにしております。

◇町田・黒須名誉会員の卓話楽しみます。

◇三村・黒須さんの卓話楽しみにしております。

(順不同・会員敬称略)

卓話「明治神宮 内と外から見た100年」

2022年9月16日（金）

明治神宮国際神道研究所
主任研究員 今泉宜子氏

空間の内と外

明治四十五年七月三十日午前零時四十三分、明治天皇崩御。45年の長きにわたった明治が終わりを告げました。実はのちの明治神宮造営に繋がる動きは、この明治終焉の日から既に始まっています。動いたのは渋沢栄一をはじめとする東京の民間有志たち。彼等の願いは、是非東京に明治天皇の御陵をつくりたいということでした。しかし八月一日、陵墓は明治天皇自身の遺志により京都の伏見桃山に内定していることが明らかにになり、東京有志の運動は、明治天皇を祭神とする神社建設にむけて大きく舵を切ることになりました。

明治神宮は明治45年と大正3年にあいついで崩御され

た、明治天皇とそのお妃である昭憲皇太后の御霊をお祀りするお宮として、大正9年に創建されました。鬱蒼と広がる70万平方メートルの鎮守の森は、実は全国から寄せられた約10万本の樹木によって造成された人工林です。この森を、正確には明治神宮「内苑」と称します。

一方、この「内苑」と対になるのが、現在ヤクルトのホームグラウンド、明治神宮野球場を擁する「外苑」、明治神宮外苑です。内苑が御霊を護るモリであるのに対し、外苑はスポーツや芸術など、さまざまな文化の回路を通して、明治天皇とその時代の精神を後世に伝えることを主眼としています。そして、明治神宮はこの内苑と外苑がセットであるという明確な構想のもとで、当初から造営されたこととはとても重要です。

ところで先ほど、渋沢栄一たちは当初、東京に明治天皇陵をつくりたいと動き出したとお話しました。それが天皇ご自身のご遺志で、陵墓は京都に決まります。明治天皇は生まれも育ちも京都です。死後は京都に還り桃山の地に眠りたいというご希望が生前から宮内大臣に伝わっていたと

のことで、実はのちに渋沢たち民間有志が明治神宮外苑の敷地とした場所は、明治天皇のお葬式、大喪の礼が行われた場所でした。当時、天皇の棺がおかれた場所に、今は立派なクスノキが育っています。ではなぜ大正天皇陵は京都でないのかということですが、これは大正15年に「皇室陵墓令」という法令が定まったことによります。これにより、今後建設する陵墓は管理などの理由から、東京府およびこれに隣接する県にある御料地につくることになりました。

それが現在、宮内庁が管理する多摩御陵、武蔵陵墓地です。明治神宮に奉職すると申しますと、宮内庁職員と間違

われることも多いのですが、戦後の神社はすべて一宗教法人です。本日は多摩御陵についても言及せよとのリクエストでしたが、そんなことで詳しいことがわからず申し訳ありません。ちなみに明治神宮では、毎年1月7日に「武蔵野御陵遥拝式」をおこない、終了後は宮司が武蔵野御陵まで足を運び、参拝しています。

さて、明治神宮の成り立ちを御説明するとしばしば驚かれることに、「表参道が明治神宮の表の参道」という意味だと

は知りませんでした」とおっしゃる方がいらっしやいます。全長約1キロメートル、幅36・5メートルの堂々とした並木道は、勿論明治神宮の参道として築造されたものです。大正9年11月1日の明治神宮鎮座祭にあわせて開通しましたので、明治神宮と表参道は誕生日も同じ。おなじ年回りで周年を祝うことにもなります。

表参道と対をなし、裏参道があるのは御存知でしょうか。内苑北門の代々木口から千駄ヶ谷を通って外苑へとつながる、通称「内苑外苑連絡道路」と称された銀杏並木の街路です。幅は表参道とほぼ同じ、車道と歩道のほかに、乗馬道と植樹帯を備えた、日本屈指の「公園道路」なのです。が、残念ながら現在あまり面影がありません。昭和39年のオリンピック開催にあたり、乗馬道のうえに高速道路が建設されたことが、その原因です。

このように、明治神宮とは、内苑・外苑と両者をつなぐ参道空間、これらすべてを含んでいます。

歴史の内と外

2つ目の視点は、「歴史の内

と外」です。明治神宮の歴史という時、その歴史の担い手、歴史をつくっているのは誰なのか。明治神宮の歴史とは、そこで働く神主や職員によってのみつくられるわけではなく、そこには内側の人と外側の人、あるいは「中」の人とともに「外」の人の視点が必要ではないか。そのようなアプローチから執筆したのが、2013年刊行の新選書『明治神宮』でした。明治神宮の造営事業とは、この明治神宮コンプレックスとも称すべき複合的な空間を創造する、一大プロジェクトだったということができます。そこには森を築くための林学は勿論、建築造園、都市計画等、さまざまな専門知識や技術が求められたのはいうまでもありません。本書では、分野の異なる12名の代表的な造営者を取り上げました。

まず、神宮造営を実現に導いた運動ムーブメントの担い手に焦点をあて、民間有志による「明治神宮奉賛会」を設立した実業家の渋沢栄一と、時の東京市長である阪谷芳郎をあげました。内苑・外苑が一体となった明治神宮構想は、彼等東京の民間有志によって計画されたものです。また、内外苑の工事では、全国各地の青年団が造営に奉仕し、その数がのべ11万人に及

んだことはよく知られていません。そこで3人目に、この青年団奉仕運動の立役者として田澤義舗を取り上げました。

第二章では、人の手による100年計画の森づくりをリードした3名の林学者が登場します。本多静六、本郷高德、上原敬二。天皇崩御の明治45年、3人はそれぞれ46歳、34歳、23歳。ほぼひとまわりずつ年が離れた、現・東京大学農学部先輩にあたります。明治の早い時期に単身ドイツにわたった本多は、現在のミュンヘン工科大学で林学を学び、博士号を取得。帰国後、東京大学の林学を切り開いていく先駆者となります。

次の第三章「都市のモニュメント」では、山形県出身の3名のエンジニアたちとして、伊東忠太・佐野利器・折下吉延を主人公にあげました。社寺建築で知られた建築家の伊東忠太、震災前後を通してとくに外苑の建築に関わった耐震構造の父・佐野利器、そして都市の街路の専門家であり、参道の配置計画を担ったのが折下吉延でした。

最後は、外苑の中心施設として計画された聖徳記念絵画館の成り立ちです。ここでは、政治家の金子堅太郎、2人の画家二世五姓田芳柳と寺崎武男という人物をとりあげ、東京における「記憶の場」の誕生を論じました。

—— 中略 ——

経験の内と外

内と外から見た明治神宮。3つ目の視点は、「経験の内と外」です。さきほど、明治神宮の歴史は、中の人だけの歴史ではない。歴史の担い手は、内側にも外側にもいる、という話をしました。この見方をさらにまた進めます。この100年間、明治神宮とは人々とつてどのような存在だったか。このような問いを立てると、明治神宮を「つくる」人だけでなく、「つかう」人もまた、歴史の担い手ではないのかということに思い至ります。例えば、内苑にお参りする人、外苑でスポーツをする人、そして表参道で華やぐ人々など。つまり、経験としての明治神宮という視点です。このことを実感したのは、大正9年11月1日、鎮座祭の日、明治神宮という創られた参拝空間を人々がどのように経験したか調べた時のことです。

11月1日午前8時30分、新しい社殿に祭神の御霊代を祀る鎮座祭が始まります。造営局総裁伏見宮貞愛親王、副総裁床次竹二郎、宮司一條実輝、内閣総理大臣原敬らが奉仕するなか、勅使九條道實掌典長が明治天皇と昭憲皇太后の御霊代を神座に奉りました。やがて、約1400名の参列員を代表し、東郷平八郎が玉串

を捧げ、祭式は無事に終了します。

このように、境内で厳かな神事が行われていたころ、表参道では午後の開門を待ちきれない群集が「警戒線を突破」していました。参拝者はこの日だけで50万人を上回り、実に死者が出るほどの大混雑となりました。翌日の『東京朝日新聞』は、「混乱はいよいよ甚だしく、ヨロヨロヨロめき打倒れて救護班の厄介になる者もあれば、下駄をなくして足袋はだしの者、靴の片足を何処かへやつて口惜し気な洋服男、友を失った者、其処には様々な悲喜劇が一時に現れられて居る」と、祭りのあとのドラマを伝えていきます。

明治神宮の誕生は、時の国民の関心事だったことがうかがわれます。彼らの目当ては内苑の参拝もさること、外苑で催される相撲や競馬などの奉祝余興であり、なにより表参道その他の街路が提供する娯楽のさまざまでした。表参道では鳥居型をした巨大なハリボテの奉祝門が入口に建ちました。夜にはイルミネーションが華やぎを演出します。そして、街頭に軒を連ねる露店は、当時人気を博した記念絵葉書を求める人でごった返しました。この賑わいは11月1日から、かつての天長節であり、のちの明治節、新しい明治神宮の例祭日となった11

月3日まで続きます。

「原宿生まれ原宿ッ子が集まると「明治節は見せ物小屋が出て楽しかったねえ」という話が出ます」。著書『原宿の思い出』でそのように回想する家城定子さんは、1933年生まれ。その子供時代というと戦中期にさしかかりますが、地元で生まれ育った方々によれば、1940年を過ぎても明治節は一年で一番楽しい日だったといえます。その情景を、家城氏が「明治神宮の思い出」に生き生きと綴っています。「ボン！ボン！」とお祭りの火花が上がると、私たち姉妹は、その音にせかされるように家を飛び出し練兵場に向かいました。近づくにしたがってサーカス団が奏でるジンタ（吹奏楽）の音が聞こえてきます。私たちは、それに誘われるようにしてサーカス小屋に入り、綱渡りや空中ブランコをハラハラドキドキしながら見たものでした。

……たぐさんの見せ物小屋の中でも何とも不思議に思ったのは「蛇女」でした。……「一寸法師」や「お化け屋敷」もこれと同様で、騙すのも騙されるののお祭りの余興なればと、今になって思うのです。さらに、明治神宮の鎮座祭を伝える当時の新聞を調べて面白いのは、一面、二面、そして三面とページをめくるほど「賑わい」の中身が、庶民的という

か下世話になってくるということ。庄厳な神事から見せ物小屋の蛇女、そして活動写真の実況映画まで、祭りとしての明治神宮にはその諸層があり、人々の経験もまたさまざまです。それは今も変わりありません。

おわりに

令和二年十一月、明治神宮は大正九年の鎮座から百年を迎えました。境内では、10月31日から11月4日までの5日間にわたり、鎮座百年大祭が斎行されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、にぎにぎしい記念行事や式典は中止を余儀なくされましたが、この節目にあたり天皇皇后両陛下より、次の御製御歌を賜りました。

御製
百年（ももとせ）の世のうつろひをみまもりし御社（みやしろ）は建つ明治の杜に

御歌
木々さやぐ豊（ゆた）けき杜の御社（みやしろ）に 参りて明治の御代を偲びぬ

明治の森は、訪れる者がその木々のさやぎに耳をすませば、百年の世のさまざまを語りかけてくれる、そのような森でもあります。

例会報告

第2969回・2022・9・16(金)

◆司会 塩野明会場監督補佐



司会 / 塩野明会場監督補佐

◆開会点鐘 関 和之会長

◆お客様のご紹介

明治神宮国際神道研究所 主任研究員 今泉宜子様

◆Rソング それでこそロータリー

◆食事と交歓 洋食

◆出席報告 坂下幸夫出席委員



出席報告 / 坂下出席委員

会員101名中67名出席。出席率71・28%。前回9月2日の出席率76・60%を81・91%に修正します。

◆ニコニコ発表

山本正光財務委員



ニコニコ発表 / 山本正光 財務委員

◆会長挨拶 関和之会長



会長挨拶 / 関和之会長

*9/10(土)にこちらのホテルで、八王子車人形国重要無

形民俗文化財指定を祝う会がございました。私は急な用事で伺えなくなり、榊田幹事に依頼し代理で出席していただきました。当クラブ会員も多くご出席されていたそうで、とても良いお祝いの会だったと聞いております。

*先日多摩南グループ協議会にて、八王子カントリークラブで開催される来年5月19日の地区親睦ゴルフ決勝大会に当クラブと町田サルビアRCの2クラブが選出されました。その席上で「当クラブはAチームだけでなくBチームCチームまでもシングルプレーヤーである。優勝を狙って頑張ります」と言いました。因みにハンデが二桁の私はその他大勢ということになります。

*皆さまもご覧になったかと思いますが、週報に馬場パスト会長がグラスにまつわる良い記事を寄稿してくださいました。本当にありがとうございます。誕生日プレゼントのこのグラスですが、田島硝子の物で賞も取っていただいて大変人気があるグラスです。昨夜ヤフーニュースでこの偽物が出回っていることを知りました。偽物は口に当たる部分が厚かったり富士山がのびりしているそうです。既にお受け取りの方もいらつしやいます。皆さまのお手元に行くのは偽物が出回るほど人気のある本物のグラスですので、ご安心

◆幹事報告 榊田義久幹事



幹事報告 / 榊田義久幹事

*来週9/23は祝日休会です。祝日の為メイクアップ用紙のご用意はございませんのでご承知おきください。

*再来週9/30(金)18:00より5階「翔王」にて第2700回記念夜間例会を開催いたします。ご出欠がまだの方は事務局までご連絡をお願いいたします。

*また今月末をもちましてクルビズは終了しますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

*先日多摩南グループ協議会で10/24(月)開催の世界ポリオデー2022として上映される映画「ブレスレス」にあわせての呼吸リフレットをいただきました。受付に数部ありますのでご興味のある方はお持ち帰りください。

*東京三鷹RC会員の宮崎陽市郎ガバナエレクトがポリオ寄附を目的として日本縦断をする「エンドポリオサイクリングチャレンジ2750」にチャレンジされます。各テーブルに2枚ずつ配布いたしましたのでご覧ください。

*本日メールボックスには、親睦

旅行のご案内を配布いたしました。この後、立花親睦家族委員長からご案内があります。後程メールおよびFAXでも配信いたしますので、是非ご参加のほどよろしくお願いたします。

◆委員会報告

立花 探親睦・家族委員長



委員会報告 / 立花親睦・家族委員長

◆スピーカー紹介

町田修一プログラム委員長



スピーカー紹介 / 町田プログラム委員長

スピーカー 明治神宮国際神道研究所 主任研究員 今泉宜子氏 テーマ「明治神宮 内と外から見た100年」

◆閉会点鐘 関和之会長

スピーカーへの謝礼贈呈



◆ニコニコボックス

◆関会長・今泉宜子様卓話 楽しみにしております。

◆福山・今泉先生、明治の森100年のお話をとくと聞かせて下さい。

◆町田・今泉様の卓話楽しみです。よろしくお願いたします。

◆山本正光

(順不同・会員敬称略)

東京八王子西ロータリークラブ

〒192-0083 東京都八王子市旭町 14 番 1 号 京王プラザホテル八王子 8F

TEL.042-649-3751 FAX.042-649-3753

https://www.hachioji-west-rc.org

会長 関 和之 幹事 榊田義久 広報委員会 浅川立憲 原 巖 原 啓一郎 末木 博 諸星宗幸 小林潔正 船江栄次



皆様の投稿をお待ちしております。お気軽にお寄せください。

アイデアを上げよう : www.rotary.org